

報 告 書

2021年 2月 27日

活動実施団体名 NPO法人行徳野鳥観察舎友の会

責任者名：野長瀬雅樹

報告書作成者名：野長瀬雅樹

1. 活動の名称（タイトル・テーマなど）

江戸前干潟研究学校

2. 実施日

2020年9月13日

3. 実施場所

千葉県市川市新浜3 行徳鳥獣保護区

4. プログラム等

10時 集合・受付 挨拶の後保護区内へ移動

10時～ 保護区内の海岸・池に前日設置した定置網を回収しながら、その都度採集された生物を観察・記録。

13時半 調査終了・解散

5. 対象・参加人数（内訳）

一般参加5名

スタッフ5名

6. 活動の内容・状況・感想（参加者並びに主催者）

行徳鳥獣保護区は東京湾奥部、宮内庁新浜鴨場に面する海面を埋め立てて造成された人工の自然保護区です。東京湾とは水門と水路で繋がり、干潮時には狭いながらも泥質の干潟が現れます。本土部には地域の生活排水を水源とする池や棚田があり、自然の力で浄化を図りつつ流下し、海へ注いでいます。淡水・汽水・海水と連続的に繋がるヨシ原（=かつての東京湾の風景）が復元された保護区の水生生物相に親しみ、保護区の環境や東京湾について知ってもらおうというのが江戸前干潟研究学校です。2015年から毎月1回の調査観察会を実施しています。

9月は1家族と1名が参加。2歳の子もいましたが曇天で暑くも寒くも無く快適に過ごせた一

日でした。淡水域では、他の水系から独立している雨水のみの旧淡水池でクサガメとウシガエルのオタマジャクシが多数。長靴池では久々のニホンウナギ(約70cm)が出現。曝気用に水車を回している水車池でも40cmほどの個体が記録されました。海水域では百合ヶ浜の大網で、数は前月の1/3でもサイズがやや大きくなったコノシロ稚魚。過去最大サイズのコショウダイやタイワンガザミが採れていました。場所や時期によりサイズが異なる(=成長段階が異なる)など保護区の多様な環境をそれぞれ利用している様子がうかがえます。参加した子供もさまざまな魚を手にとって興味深げにしていました。

7. 写真 (6. 活動内容・状況・感想の中に差し込まれて結構です。)



採集したものを観察



淡水池のクサガメ・ウシガエル



網の中見を確認



ウナギがいた！



百合ヶ浜沖の大網



タイワンガザミ・スズキ・コショウダイ